

俯瞰的な

見方

## 『俯瞰』

A F P Yに取り組む中では、「子どもたちの現状を把握し、その上で必要な課題や関わりの方策を考える」ことが大切です。現状を知るのには、“俯瞰的な見方”が有効になります。

アクティビティで出会う  
光景

例えば、バラバラにした絵本のページを元通りの順に並べ直すアクティビティがあります。子どもたちは絵本のページを1枚ずつ持ち、相手に直接見せないルールで、元通りのページ順に並べ直していきます。

このアクティビティに取り組む中で次のような光景に出会います。

最初、一人ずつで動いていた子どもたちが、“きっと近いページであろう”相手と2人組、3人組になり、やがて3、4つのグループができ、最終的に全体の完成に向かいます。



俯瞰して  
分かること

最初のうち、子どもたちは自分と関係のある(ページが隣り合っているなど)相手が本当にいるのかどうか不安なようです。手に持つ絵カードの情報をどのように他者に伝えれば良いのか戸惑っている子も多くいます。その中で、自分からとにかく動こうとする子、まずは周囲の様子を観察して、それから動き始める子など、自分なりにかかわり方を工夫する様子が見られます。その、かかわりの中で出てきた言葉をヒントにまずは個人と個人が、やがてリーダー的な役割をする子が現れることによりグループとグループがつながり始めます。

また、課題の達成という共通ゴールに向かって活動することで、子どもたちが室内あちらこちらで活動していたのが、自然に部屋の中心に集まり始める様子も分かります。このことを伝えると、子どもたちは学級としての一体感をより一層強く感じるようです。

学級の“今”  
を俯瞰

俯瞰して見ることで、私たちが普段見落としていた子どもたちの一面に改めて気付くことができます。

慌ただしい日々の生活の中でも、時にはふと立ち止まり、学級の“今”を俯瞰してみませんか。

～社会教育・文化財課のHPで、「心の冒険・サマースクール」「AFPY」の取組をご紹介します。～

基礎的な学習活動に動きを加え、人と関わりながら楽しく学ぼう！

『ウエスタンチャレンジ』			
教科・領域等	算数・数学科、朝の会・終わりの会（朝・終学活）等	時間	5～10分程度
準備物	なし		
活動の実際 ※留意点	<p>【足し算 Ver.】</p> <p>①隣の席の人と向き合う。</p> <p>②向き合った二人で「セット！」と声をかけ、同時に片手を後ろに回し、相手に見えないように指を何本か立てる。（初級として1～5までの数を扱う）</p> <p>③「せーの、ドン！」で後ろに回していた手を正面に出す。</p> <p>④自分の指と相手の指の本数を足して、早くはっきりした声で答えを言った方の勝ちとなる。</p> <p>⑤勝ったら喜び、負けたら相手に「おめでとう」と言い、活動を終わる。</p> <p>【引き算 Ver.】</p> <p>※上記④の際、お互いの指の本数を見て、多い方から少ない方を引くルールに変更する。</p> <p>【かけ算 Ver.】</p> <p>※上記④の際、自分の指と相手の指の本数をかけるルールに変える。</p> <p>【わり算 Ver.】</p> <p>※上記④の際、お互いの指の本数を見て、多い方をわられる数、少ない方をわる数として、商を言うルールに変更する。（余りは気にしない。）</p>		
ふりかえり	<p>○早く答えを言うために、工夫したことはありませんか？（あるとしたら、それはどんな工夫ですか？）</p> <p>○ノートに書く計算練習と違うと感じた人はいませんか？（いるとしたら、どんなことを感じましたか？）</p>		
継続的な活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記①について…席を移動し色々な人と対戦してから席につくようにする。</li> <li>・上記②について…活動に慣れたら、両手を使って0～10までの本数で対戦するようにし、難易度を上げる。</li> <li>・終わりの会の場合、勝った人から帰ることができるようにする日を設ける。</li> <li>・参観日等の機会を利用し、参観に来られている大人に対して挑戦する。…等、クラスの実態に応じて様々にルールや場の設定を変え、楽しむ。</li> </ul>		
子どもたちの感想や変容、等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（足し算の時）僕は1を出したら簡単に相手より早く答えが言えると思ったけど、〇〇ちゃんは10を出したら相手の本数を見ただけで答えが言えることに気付いていてすごいと思った。</li> <li>・参観日で勇気を出して大人と勝負したら、大人より早く答えが言えた！</li> <li>・はじめは決まった友達としかやっていたけど、最近は色々な人と対戦できるようになった。</li> </ul>		
実践者からのひとこと	<p>AFPY では、感情が行動や認知の部分に大きな影響を与えていると考えています。専科の授業はある意味一発勝負。少人数算数を楽しみに教室に来る児童が一人でも増えてくれたら…という思いをもち取り組みました。ノートに綺麗に書くのは苦手でも喋るのなら得意な子、じっとしているのは苦手でも動きながらなら頭の回転が早くなる子等、児童の様々な面・マルチな能力に光を当てたいと思ったとき、この活動は効果があります。是非、継続してお試ください。</p>		

（岩国市立川下小学校 手嶋泰寛先生による実践）

